

祝創刊200号

社団法人 長崎青年協会

Nagasaki Young generation Association

長崎青年協会
（社団法人）

我々は会員の团结
相互扶助の精神の上に
自己の建設と
会員の親睦を図り
もって地域社会の発展に
寄与する事を目的とする



己れに厳人に寛



会長 新ヶ江 憲和

広報誌200号おめでとうございます。青年協会に広報誌が生まれて、20年近くになると思います。青年協会27年の歴史の中で青年協会のダイヤリーとして、ここまで継続して来られた歴代広報委員会の皆様方に深く敬意を表したいと思います。

さて、本年度の事業も先日2月18日、25日のランタンフェスティバルの参加で全て終了しました。

本年は振り返ってみると対外的にも内部的にも、例年よりも多くの事業を行い、会員の皆様方には多くの負担をかけたことを申し訳なく思っております。しかしそれにも関わらず皆様方には、それぞれ真剣にそれに取り組んで頂きました。本当に有り難うございました。

会長に立候補したときの事業を減らすという考えが、一年が経過していく程にどんどん変わっていくというのは「政治家が公約を守らない」と言うこととある意味では同じで私自身反省するところもあります。しかし私も会長になって本根の付き合いの源は事業の時の苦労から生まれると言う事業の大しさをあらためて認識してこうなったということで御理解頂きたいと思います。

私自身会長として皆様にささえられた、一生忘れることのできない、また今後の人生の寄りどころとしての一年を過ごさせて頂いたことに深く感謝いたします、本当に一年間有り難うございました。

2月例会

今年度会員開発委員会の奮闘で大勢の会員が増えたこともあり、例会出席者の数の方も一時に比べ多くなったように感じれます。

さて2月例会は会長挨拶から始まったわけなのですが、司会の私が会長紹介の時に「今日の会長挨拶は新ヶ江会長におながいします。」と言ってしまい新ヶ江会長を動搖させたため、会長に席まで原稿を取りに行ってもらうことになってしまいました。この件につきましては、この場を借りてお詫び申し上げます。

それから講師講演の代わりに研修委員会による「北海道研修旅行のビデオ放映会と今年度の委員会の反省点」楽しい北海道研修旅行のビデオを見、その後各委員会の代表が今年度の委員会の反省点を述べ、同時にそれが次年度へのステップとなるようにと言ふことでした。

休憩なしでリフレッシュタイム、委員会報告と続き、よろこびコーナーでは松島委員長が最後のプレゼンターとして例会を締めくくっていただきました。

今年一年間多数の方に例会、二次懇親会に出席していただきありがとうございました。来月は最後のイベント「卒業生を送る夕べ」です、今年度以上の出席をよろしくお願い致します。

例会委員会 広瀬 健司

本年度の研修委員会の役割は、例会の講師選定・全体研修の企画運営・研修旅行の企画という青年協会にとってなくてはならない重責でした。最初はどうしようかとあれこれ悩みましたが、あらためて振り返ってみると、それぞれ何とか無難に勧められたと思っております。これは、率先力不足の私を助けてくれた委員会のメンバーのお陰だと感謝しています。一年間、本当にお疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

研修委員長 渋谷 晃

バスケットボール大会

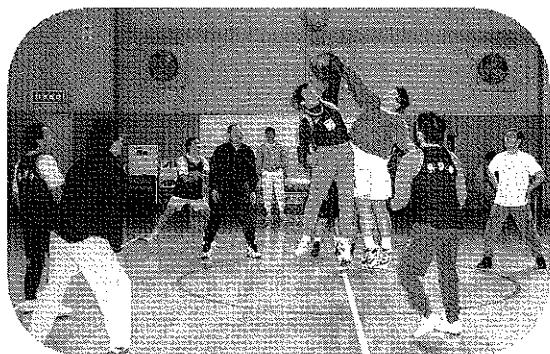
新人代表 山室 敏紀

2月11日新人研修の一環としてバスケットボール大会をおこない、大した怪我もなく無事終了致しました。・・・・・大会後の筋肉痛は別として・・・・・

当日は、前日の雪模様とうって変わり朝から晴天で絶好のスポーツ日和でした。バスケットのチーム編成を、当日の朝からくじ引きで決めておこなったのですが、1チーム5人ぎりぎりの人数しか集まらず、ゲーム中交替無しのぶつ続けであったにも関わらず、皆さん足をよたつかせながらも頑張っていらっしゃいました。

特に最後のアトラクションとして今期卒業生チーム対バスケット同好会の試合では卒業生チームの元気なこと、バスケットとラグビーを同時に見ているような試合でした。

今回参加されていただいた皆様、同期新人、特別事業・会員開発委員会の皆様、協賛商品をいただいた皆様、本当に有り難うございました。



— フラッシュ —

2月15日、在長崎中国総領事館の新総領事である會文彬氏が我が長崎青年協会事務局に着任の挨拶に来られました。

以前にも大使館書記官として約十年、日本で勤務した経験があるだけに堪能な日本語で気さくに且つ和やかに話が弾みました。



一年間をふりかえり

委員長、ハンセイ！

総務委員会

委員長 白山光男

地味な活動の多い中、会長選任の臨時総会の会員出席率の向上を柱に取り組んだのですが、直前の200%夫婦同伴例会やくんち広場の出席率には遠く及ばず、残念でした。それでも、活動目標の80%位はクリア出来たと思います。

また、委員長2年目を余裕を持って楽しませてもらいました。しかし、メンバーのフォローについては不十分であったと反省しています。



例会委員会

委員長 松島孝之

卒業の年に例会委員長を努めさせて頂き新ヶ江会長には心より御礼申し上げます。限られた時間の中で行う難しさ出席率の問題など、例会の厳しさを改めて認識した次第です。そう言った意味では皆様方には十分に満足できる物ではなかったかもしれませんのが山口副委員長を初めとする委員会のメンバーの頑張りに深く感謝します。本当にありがとうございました。



研修委員会

委員長 渋谷晃

去る2月21日に行われた例会は、事実上今年度最後の例会として講師なしで我々の委員会に時間をいただくことになりました。

前半は、我々の3大イベントのひとつで、先月実施した「北海道研修旅行」の模様をビデオで紹介しました。参加しなかった会員の皆様には多少退屈だったかもわかりませんが、約1ヶ月かかって編集した（力作の？）ビデオをご覧いただきありがとうございます。後半は、委員会別の一年を振り返っての3分間スピーチを各委員会の方にお願いしました。総務は寺本君、例会は三瀬君、研修は鶴柴君、広報は松島君、会員開発は河野君、会交流は地島君、特別事業は石田君、地域事業は梅田君、企画事業は山崎君、企画調整室は増崎君、以上10名のそれぞれ特徴のあるユニークなスピーチを聞くことができ、また一年の締め括りとしても有意義であったと思っております。



広報委員会

委員長 渡部一夫

今年度当委員会は、会員の活動を生の声で伝える事を目的として、それぞれの事業をその担当委員会で文章にして戴きました。会員の皆様には御面倒をお掛け致しましたが、個性もでてよかったですのではないかと思います。又その場の雰囲気を伝える為写真を多用し何年か後に見返しても楽しめる物にしたつもりです。

年間を通して、月4回以上の委員会と各事業の取材活動は、それなりに大変な部分もありましたが、終始楽しくまとまりのある活動が出来たと思います。



会員開発委員会

委員長 櫻井俊郎

年頭初の最低目標の20名に1名及びませんでしたが、会員の皆様が協力してくれたおかげで19名の新入会員がありました。反省点として紹介していただいた方を押しが足らず入会にこぎつけられなかった事、なかなか即座に対応出来なかった事などありました。新入会員の対応、新人研修の不手際の多分にあったと思います。この一年間委員会のメンバーも仲良くそれぞれ頑張った事と思います。

会員交流委員会

委員長 吉田正幸

まず、始めに、会員の方々また家族の皆様へ、今年度会員交流委員会が、担当しました行事に参加頂きありがとうございました。御礼申し上げます。

さて、今年一年振りかえってみると、企画準備の為とはいえ幾度も委員会が夜遅くにまでなる事が多く、委員長として反省する次第です。今年度の初めに、委員会の時間は短く、能率的にと、岩満室長と話した事を思い出します。

“やる事は、やらんば”と夜遅くなるのも仕方ない、当たり前、との考えもあるでしょうが……。しかし、人の考えはそれぞれ!!きっと苦に思う人、思った人がいるはずです。

委員会のメンバーみんな本当にありがとうございます。

特別事業委員会

委員長 平田雄一

本年度は、厄入、おくんち広場、そして理事会での流れに負けて二月の新人研修バスケットボール大会と行なってきました。特に思い出になってるのは、おくんち広場です。私としても一度はやってみたかったのですが、やっぱり大変でした。

一年間を通して思ったことは、現役の時は理屈ばかり言うより、行動をしたものが自分自身には力になるのでは、ということです。次年度もがんばります。

地域事業委員会

委員長 板倉和人

我委員会は、当初何の柱となる事業がないまま、委員会活動スタートとなりました。そんな中で、委員会を開き、回を重ねる度に、出席のメンバー同志がお互いを理解し、協調しあうようになってきました。9月頃から事業が自白押しとなり、“ふうせんバレーボール” “おくんち前夜祭” “留学生と市民の集い” “ランタンフェスティバル”を担当させて頂きました。

会長曰く“事業を通して親睦を計る”を身をもって体験出来た事と、対外事業が多かった事で、青年協会員として、何を言って、何をしないといけないかをメンバーそれぞれが、立場の違いはあれ、考えさせられました。我委員会を側面から多くのフォローを頂いた会員の皆様に深く感謝します。

企画事業委員会

委員長 西口勝治

湯藤正典副委員長、卒業される辻丸佳憲君、33年会の丸尾隆君、荒内賢治君、松尾俊二君、忙しい池辺孝一君、新人3名の山崎伸一君、藤井亘君、村上敏雄君、一年間楽しい委員会ありがとうございました。また、私達委員会の事業に御協力いただきました。会員の皆様ありがとうございました。

想い出しますと、夏の平和大使体験航海と青年フォーラムでは、会員の皆様の意気を感じ、心に残る事業となりました。最後に、役員の皆様に大変御迷惑をおかけした事をお許し下さい。最後に忘年会優勝は大変うれしかった思い出です。

ゴルフ大好き

広報委員会 倉 田 和 彦

8年間ミスショットを打ちつづけたおかげでほんの少しゴルフがわかり始めた。ゴルフはマナーから入れと言うが僕の場合、まったくけしからんビギニーだった。人が打つ時しゃべる、グリーンは走る。時間にはギリギリに行くといった具合で、ゴルフがわかりかけてきたとゆうのはそんなことが少しずつなくなって来たとゆうことでスコアがよくなつたとゆうわけではない。

1つシングルになったものがあるとすれば言い訳ぐらいだ。これは言うまいと思っていても今でもボロット出てしまう。

ある博士によると言い訳の中には見栄、虚勢、逃避、責任転嫁などがあって、重要なのは言い訳によって自分に対する負荷を軽くしようとする本能が働きそれが相手に受け入れられたとわかった時、気持ちがとっても軽くなつて自分の失敗を早く忘れるができるそうだ。

「もう、2ヶ月ゴルフしてないよ～」「いや～、前日飲みすぎて」「今日はパターがいつもとちがうんだ」「あ～、ダブッタ」「あ～、スライス」

自分のショットを悲鳴入りで解説して見せるが、いちいち言われなくても見ればわかる。

まあ、こんなことは朝のあいさつ代りにしている人もいるし、相手の失敗は見ていて楽しいのでまあ許せる。しかししてはいけない言い訳もある「天候」と「コースコンディション」だ。何も自分が風雨に遭っているわけではないのだから。

なにはともあれ、ゴルフは楽しい。大の大人が前日遠足に行く子供みたいにワクワクして眠れないとゆう話もわかる気がする。きれいな空気と緑、そして気の合う仲間、たった一度の人生でゴルフにめぐり逢えた僕は果報者なのかもしれない。

P・S 来季は幹事なので参加のほうヨロシク。

長生きする木造住宅のすすめ

広報委員会 村 田 修

木には人間の健康に大切な湿気を調整する機能があり、空気が乾燥していれば水分を放出し、湿度が高い時は水蒸気を吸収する働きをします。湿度が低くなると、口が乾燥してビールが繁殖しやすくなります。最近のように機密化が進んで冬間でも暖房により部屋が暖かく保たれ水蒸気が多く発生するような生活環境になると、結露が多くなりカビに格好の住処を与えてしまうことになります。

また小児ゼンソクやアレルギーの原因としてクローズアップされてきたものに住宅内に発生するダニの問題があります。ダニが多く発生するようになった原因の一つはやはり住宅の気密性が高まり、冷暖房が普及したことでダニ類に最適の生息環境を与えていることです。

ダニ発生を押さえるには通風をよくし、太陽によくあてて室内を清潔にすることが必要ですが、要はなるべく自然な環境を保つということでしょう。木は建材として使われても長いこと生きています。この間は水分の吸、放湿性をもち呼吸しています。この性質を保つことによってよりよい環境をつくれることは容易に想像できることでしょう。その意味で木造軸組工法は九州の高温多湿の風土に最も適した工法と言えます。

環境を考える—思い上がった人間どもへの鎮魂歌— レクイエム

広報委員会 渡部 一夫

今年はひさしぶりに冬らしい冬となりましたが、ここ数年来あつすぎる夏、寒くない冬を過ごす事が多かったように思います。そして毎年の様に言われる水不足、これらは日本も砂漠化へと歩を進めていく事の表われではないでしょうか。「異常気象は地球規模で起こっています。」

これらは地球も自然も自分達の為にあると感ちがいしてきた思い上がった人間どもへの警告ではないでしょうか。この警告を無視しつづけると、子や孫の時代にとりかえしのつかない形でつけを残す事になるかもしれません。

今、我々は真剣に考えなければいけない時期に来ています。

私達広報委員会は再生紙を使用するという形で微力ながら表現してきました。

ささやかなメッセージとして……。

'96ランタンフェスティバル (媽姐行列を終えて)

地域事業委員長 板倉 和人

今年度最後の対外事業として過る2月18日、25日両日媽姐行列に青年協会として参加しました。総数約150名の行列の中で、パレード隊、誘導整備と会員の皆様延べ50名以上の参加を頂き事業に対する会員の前向きの姿勢が成功の一つの要員だったとお礼申し上げます。本当の意味で長崎三大祭りの一つとなっていく為にも、今後青年協会の関わりを真剣に考える事も大事であると痛感しました。



会報誌創刊200号

広報委員会歴代委員長

故 大 石 嶽	(1~ 11号)
田 中 精 治	(12~ 22号)
松 浦 孝 一	(23~ 33号)
佐 藤 哲 康	(34~ 44号)
徳 本 知 行	(45~ 60号)
濱 口 康 幸	(61~ 70号)
福 田 穂 積	(71~ 82号)
馬 場 正 勝	(83~ 94号)
浜 本 勝 馬	(95~106号)
岩 満 克 弥	(107~118号)
平 山 英 則	(119~129号)
松 尾 秀 二	(130~141号)
中 村 善 人	(142~153号)
城 谷 富 好	(154~165号)
伊 藤 克 樹	(166~177号)
猿 渡 卓	(178~189号)
渡 部 一 夫	(190~200号)

(敬称略)

会報誌200号発行おめでとう！

OB会会長 三浦勝太

平成8年3月の広報誌が発行以来200号を迎える由。おめでとうございます。

これもひとえに歴代広報委員会の努力と『何としても継続するんだ』と云う強い意思の表れだと思ひます。

思えば青年協会設立10年目、元船町に事務局を設置、翌11年目より正式に広報誌を発行、初代広報委員長は故大石巌君だったと思います。以来、約17年間本当に御苦労様でした。昭和44年3月、7人の青年が自己の建設と強い郷土愛から長崎青年協会を設立。会員の強い団結と信頼の基、幾多の試練を乗り越え、現在社団法人長崎青年協会として地域社会に密着した活動を続け高い評価を受けています。

青年協会の歴史と活動を刻み続けてきた広報誌。今後共広報誌を楽しみにしているOB会員や関係者の方々に爽やかな便りを届けて欲しいものです。

誌上より後輩諸君にエールを送ります

“勇往邁進” 仕事もよし。飲むもよし。遊ぶもよし。瞬間・瞬間 完全燃焼を！

創刊200号記念懇談会

過る2月10日(土)創刊200号記念懇談会が、銀鍋にて開催された。同懇談会には歴代の広報委員長である徳本知行〇B、中村善人〇Bをはじめ岩満克弥君、城谷富好君、伊藤克樹君に出席頂き、興味深い懇談会となりました。尚、司会は渡部一夫君(広報委員長)、原喜一郎君(次年度広報委員長)。

司会：皆さん、それぞれの時代の思い出をお話下さい。

中村：思い出といえば、毎月毎月折りかぞえて3月の来るのを待ちました。また今の広報誌はどこへ出しても恥ずかしくないものになっていると思いますが、見るのが楽しい『青年協会の広報誌』をもっと打ち出して下さい。

伊藤：くんちの踊り町の年に広報委員長を拝命しました。委員会のメンバー全員で広報誌を作成しましたが、ある時期など編集作業を朝がたの3時、4時までやった思い出があります。

城谷：広報誌の表紙を初めてカラーにしました。表紙のシリーズの『長崎の未来図』は最初は良かったのですが、途中から題材を探すのに苦労して、市役所や県庁にたびたび「何かありませんか?」と探して回ったことを思い出します。また協会の内部重視・充実を目指して新コーナー(チョンガーレ伝・ぼくの自慢家族・委員会訪問・青年協会のルーツ)を作りました。さらに、こだわったこととして、誌面にメンバー全員を載せることにして、それを達成しました。反省点としては、文章が柔らかすぎたこと、また、自己主張が不足していたことだと思います。誤字や写真の間違いが多かったことも苦労した点です。

岩満：当初は表紙を替えるのが協会の特徴かなと思い、思い切って表紙変更の件を4月の理事会に提案しましたが、あっさり拒否され、5月からまた元に戻りました。広報委員会は誌面の編集作業と並行して、対外的なスポーツマンとしての役割がありますが、これを担っていくのはたいへん難しいと思います。また、当時の広報委員会では委員長の私が一番年齢が若かったので、委員会の運営をどうすればよいか、当時の田代先輩に相談に行きました。すると「1人1人回らんばやろ」と言われました。そして、私はそれを実行して、そのせいかか、おかげでうまくいったと思います。

司会：今後の広報誌に望むことは何がありますか？

城谷：今までの広報誌に満足することなく、常に新しいア



司会は渡部一夫君、原喜一郎君

イデアを出して下さい。そして、内容的に濃いものを目指してまめに色々な所を回る、「まめな委員会」になって下さい。

徳本：会長や先輩から、いろいろな話を聞けたことが貴重な思い出でしたが、原稿収集には苦労しました。

伊藤：広報委員会は広報誌の発刊のみでなく、PR委員会でもあると思います。

徳本：昔は例会に来れなかったメンバーのために、講師講演を全て起こし文章化していました。



城谷富好 君

城谷：12月号と1月号は間隔が短く（1月号は元旦に家庭に届く様にする為）題材を探すのに苦労しました。

司会：15周年は徳本先輩、20周年は岩満君、25周年は伊藤君がそれぞれ担当されたのですが、その時の思い出は何かありますか？

徳本：記念誌の編集のため、休みの日は殆どそれにかかりっきりでした。1年間それに没頭したため、出来上った時の喜びは大きかったです。



徳本知行 OB

岩満：20周年記念の特集として、青年会議所の理事長をはじめ、各青年団体のトップにインタビューをしました。

伊藤：正月の元旦に家庭の届くようにしなければならなかったのですが、25周年記念誌は定型外ということで年賀扱いはできないということでした。とても困ったのですが、中央郵便局の方にわけを説明して相談にのってもらいました。おかげで2～3日前に計算して投函して事なきを得ました。



伊藤克樹 君

司会：広報誌を作る意味合は何でしょうか？

徳本：基本的にはメンバー内の活動報告だと思います。私の場合、協会の内部重視の立場から県庁や市役所の広報課へ行き、情報収集をしました。青年協会はローカル団体ですので県や市の動きを紹介するのも大事だと思ったからでもあります。

城谷：委員長やメンバーの目的意識、何を目標にするかによって、おのずと誌面の内容やあり方が違ってくると思います。



岩満克弥 君

岩満：毎年、それぞれの委員長が個性を出そうといろいろ変化をつけていますが、「良いものは良い」として、継続して残していくことも大事だと思います。

伊藤：広報誌は、個人の意見を書いても対外的には青年協会の意見と受けとられることもありますので、その責任は大きいと自覚する必要があります。

中村：OBになつたら進んで広報誌を見たいとは思わないものです。あくまでも現役メンバーの為の広報誌であってもいいと思います。その一方で、少ないながら広報誌を定期的に読んでいるOBもあり、その意味においては広報誌は現役とOBとの接点でもあります。



中村善人 OB

歴代委員長の言葉

懐かしいひととき

昭和57年 佐藤哲康

私が広報委員長を担当して、会報紙を発行したのは昭和57年2月（第34号）～昭和58年1月（第45号）までの一年間です。（長崎大水害の年）今手元にある当時の会報紙を見ると、ずぶの素人が恥も知らず良くやったと思います。当时の方針として、①家庭から見た青年協会、②私の家族の紹介、等の原稿が

毎月掲載出来ない程集まり、ご協力下さった家族の方々に感謝し、懐かしい時をすごすことが出来ました。

昭和61年 馬場正勝

200号の記念で、原稿依頼を戴き、ありがとうございました。何を書いたら良いのかと思い、当時の会報誌を引っ張り出して、見てみると、懐かしい思いが吹き出てまいりました。

一頁目に写真を載せたこと（写真も自分で撮りました。）毎月十日に必ず発行させたこと。（委員会の回数、時間が増えて、クレーム続出!!）新年号を一月一日に、会員宅へ届けたこと。（カラー写真で）、本当に頑張った。十名のメンバー、お世話になりました。

昭和62年 浜本勝馬

200号おめでとうございます。全員の活動報告を目的として編集に努めましたが、手元にある当時の広報誌を見て今でも胸があつくなる思いがします。企画レイアウトから始まる月4回の委員会と例会、2回の理事会と、大変充実した協会活動をおくる事が出来ました。当時は会社での仕事も立場的に忙しい時期で両立させるのに苦労しました。後頭部の円型脱毛に気付かれなかったのは幸いでした。

平成元年 平山英則

野上会長のとき、「読みやすく・見やすく・視覚にうつたえる広報誌」をキッチフレーズに、12回担当させて頂きました。決して当初の目的にそった充実したものに出来たとは言えませんが、委員会のメンバーの協力で無事に発行できたことを感謝します。今後に期待するものとしては「広報」という枠にこだわらず、NYAの主義・主張をもっと前面に、また対外的にアピールできるような誌面作りに頑張って頂きたいと思います。最後に正月号が大晦日についてすみませんでした。この場を借りて重ねてお詫び申し上げます。

平成2年 松尾秀二

私が広報委員長をさせて戴いたのは、田代会長（当時）のもとでした。今でも思い出るのは、委員会でのアイデアで広報誌に名称を付けようと云うことになったのですが、私共の努力不足で達成することはできませんでしたし、皆さんに納得して戴ける名称を考え出せもしませんでした。その件では今も残念な思いがします。

青年協会の“理念とビジョンを反映する”広報誌、こんな思いで委員会の皆さんと一年間頑張った甲斐あって、まずまずの広報誌ができたなあと今でも思っています。

平成6年 猿渡卓

広報委員長を行なうにあたり、最初に思ったのは、原稿書きがおもな仕事になるので、事務局での委員会回数は少なくなるだろうと考えました。その分、各自の時間がとれる時に自宅で原稿書きを行ない、自分に合ったスケジュールで動けると思ったのが、大きな間違いでした。広報の内容は、できるだけタイムリーなものにしようと考え、発行寸前の事業までも記事にしようとしたこともあって毎月の10日発行が実行できたのは、私の記憶によると年間に2~3回ぐらいだったと思います。仕事を終えた後に自宅で書くのは、どうしてか自分に甘えが出るものですね！

視点を変えた所に立ち広報誌を考えなおすと、まだまだいろんな方法がすることに年度の終わり頃になつて気付きました。

・H6年度の広報誌をふりかえると、協会会員のための生活面、文化面の情報発信雑誌の様な所もあってよかったです。当時の広報委員会からのお願いが一つあります。表紙と最後のページに載せてます。『懇れ！人物100選』は、大切に保管して下さい。いつか、きっと役に立つ時があります。

◀新人紹介▶



井原 崇通君

S 38.5.22生 O型
 勤務先 レストランバー
 セルパン
 長崎市銅座町11-1
 自宅 長崎市万才町2-7
 松本ビル701号

あせらず、欲張らず、無理をせずをモットーに日々精進しております。



井手 清治君

S 37.12.23生 AB型
 勤務先 (有)山幸
 長崎市恵美須町
 8番4号
 自宅 長崎市扇町6番6号

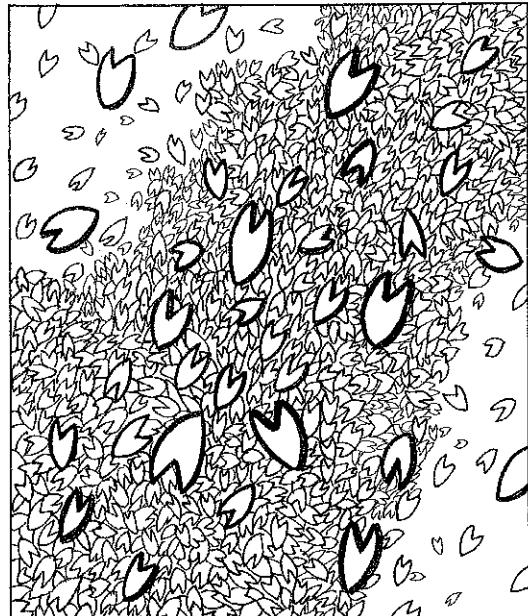
足手まといにならない様にがんばります



野島 徹也君

S 36.12.15生 ?型
 勤務先 ルノワール
 長崎市銅座町13-13
 サンライトビル3F
 自宅 長崎市昭和2丁目6-41

30過ぎて自覚が芽生え、死ぬまではたして嫁がもらえるか?



思いでも
 春のいろどり
 淡く濃く圖

編集後記

長崎青年協会々員、皆の一年間の思い出がこもった広報誌。我々、広報委員会も、二百号という節目に接することができ、やりかいのある活動がありました。これもひとえに、協会の皆さんのが、各々の事業を成し遂げられた賜ではないでしょうか。協会の事業が、どんどん大きくなっています。これから先、日に日に情報の回転も速くなり、広報活動は大変になることでしょう。広報誌は、広報委員が作るものではありません。協会員各々が、一つの事業をやり通す気持ちこそが、広報誌を作り上げます。来年度の広報委員の皆、目と耳と鼻と口を上手に使って、頑張って下さい。

この一年間、拝読ありがとうございました。

平成7年度 広報委員会

委員長 渡部一夫

副委員長 梁瀬億則

沖迫司	溝口章彦	倉田和彦	船越浩信
中山一郎	田中達也	松島健二	村田修